



昨年6月、ちよつと高級なツアーで函館に行ってきた。このツアーは『はやぶさ「グランクラス」に乗車する』というのが売りのひとつで、わが家もそれを目当てに予約しました。旅行代金が高く、最少催行人員が集まるか心配していましたが、わが家の予約日に12名が集まり催行決定。

東京まで東海道新幹線のぞみグリーン車で移動し、乗車する東京13時25分発、新函館北斗行きの「はやぶさ23号」の「グランクラス」はツアーで貸し切りという豪華さ。宿泊する函館湯の川温泉のホテルも最上級Sランクの豪華ホテルで至れり尽くせり。ちなみに帰りは飛行機で戻るため、グランクラス乗車は往路のみ。

「はやぶさ23号」は秋田新幹線「こまち23号」との併結運転で、17両という長い編成で東京を出発。途中の盛岡で分割

して北海道へ向かう速達型の新幹線。乗車するにあたり、グランクラスの内車サービス、東北新幹線の最高時速320キロ、盛岡での分割、青函トンネル通過を楽しみにしていました。

初めて乗車した東北新幹線ですが、まず思ったのがどこも非常に大きな駅にもかかわらず可動式ホーム柵がないこと、多くの停車駅でホームに乗客がいなかったことです。

また、軌道が高規格で作られていて、盛土かつ曲線区間が多い東海道新幹線と比べると、ほぼ一直線に走っているという印象。そのため、意外にトンネルが多いと感じました。そして、スマホアプリの速度計ではありますが、国内最高時速320キロでの走行も目撃することができました。

グランクラスの内車についてですが、座席は2席+1席の3席×6列の計18席しかない



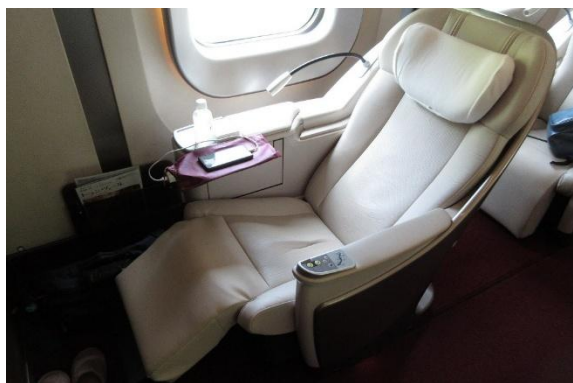
グランクラスは横2席+1席の3席×6列の計18席のみ。わが家は最前列の「6B」と「6C」をアサインしてもらいました。



「はやぶさ23号」は秋田新幹線「こまち23号」と盛岡まで併結運転。はやぶさ10両+こまち7両の計17両で東京出発。



リフレッシュメント。「和食」と「洋食」があるのですがツアー利用は和食限定。上は栃木県産「とちあい」パウンドケーキ。



私は空席の1人席「6A」に移動しました。グランクラスのシートは革張りでバックシェルタイプ。もちろん電動リクライニング。

く、シートは革張りでバックシェルタイプ。まずまずの座り心地でしたが、リクライニングさせる際に革同士が擦れ合うギシギシ音が気になりました。また、窓のブラインドも手動。こうして乗り比べると、近鉄特急「ひのとり」プレミアムシートのすばらしさを実感します。おそらく近鉄は「ひのとり」を製造するにあたり、グランクラスのシートを研究したのででしょう。「ひのとり」は特急料金プラス900円で利用できるのではなおすばらしいです。車内サービスは、東京出発直後に「ウェルカムセット」、高崎到着前に「リフレッシュメント」が配られました。また、アルコールを含めフリードリンクなので、飲みたいときにアテンドに注文すると持ってきて



スマホアプリで最高時速321キロを目撃しました。

たのでしよう。「ひのとり」は特急料金プラス900円で利用できるのではなおすばらしいです。車内サービスは、東京出発直後に「ウェルカムセット」、高崎到着前に「リフレッシュメント」が配られました。また、アルコールを含めフリードリンクなので、飲みたいときにアテンドに注文すると持ってきてくれます。まるで国際線の飛行機に乗っているようです。残念なのは映像サービスがなかったこと。座席モニターを設置し、好きな番組や前方走行映像が見えたらすばらしいと思いました。札幌延伸時は航空機から利用者を奪う必要があり、さらなるサービス向上に期待したいところです。



乗車中はすべてフリードリンク。ビールやコーヒーのほかにもノンアルコールのスパークリングワインをいただきました。



グランクラスは先頭車両の10号車で、わずか18席しかない特別な空間。専任のアテンダントが1名乗車しています。



盛岡で「こまち」と「はやぶさ」を切り離し。「こまち」は一時停止もせずそのまま出発して行きました。すべて自動。